①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・1列に並んでいる時，(ものの数)＝(その間の数)＋1と学習している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・1列に並んだものの数とその間の数の関係を，図に表して考える学習をしている。

≪学習問題≫

1ｍおきに人が並んでいき，屋上から見たとき

に人と人をつなげると，右のような2となる人

文字をつくります。

　全部で，何人ならびますか。

5ｍ

6ｍ

6ｍ

6ｍ

5ｍ

教材研究ノート№5-A-2

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し： 折れ曲がっていて考えにくい。

→直線に目をつけて，直線上に人を点で表して図にかき，長さと人の数との関係を調べればよい。

②学習課題：直線上の人を点で表して図にかき，長さと人の数の関係に目をつけて，何人並ぶのか，求め方を考えよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：線上に人を点で表して，人の数の求め方を考え，図を使って説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「直線部分の人数を求めるとき，共通していえることは何か？」

→「直線の長さ(間の数)＋1＝人の数」

④共同追究後半（思考を深める）

「（折れ線を伸ばして直線にした子どもの考えを取り上げ）この考え方でも求められるのかな？」

→「折れ線を直線に直して人の数を数えている。」

「27ｍの直線に1ｍおきに人が並んでいる場合と同じだ。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・人の位置を図に表すと考えやすい。直線のところは，長さに1たすと人の数になる。重なっているところはひく必要がある。

・曲がっているものはまっすぐに伸ばすと考えやすい。

⑥定着･活用問題

1ｍおきに人が並んでいき，屋上から見たときに

人と人をつなげると，右のような3となる人文字を

つくります。

右の形を考えやすい形に直して，全部の人の数を

求めましょう。

10ｍ

6ｍ

6ｍ

6ｍ

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・題意を捉えるために，図に表すという考え方を位置付ける。その際，ものの数と間の数の関係が捉えやすい6ｍの部分だけ取り出して表してみることも考えられる。

・重なりを省いてから別々にたす，5カ所を別々に求めてから重なりをひく，折れ線を1本の直線に直す等の考え方が予想できる。どの考えも認めながら1本の直線にする簡便さに迫りたい。

【板書計画】